

山行報告書

受付 No.	256	登山地・ルート	五竜岳 ～遠見尾根より～ （白岳まで）
目的	雪山トレーニング		
メンバー	L: 大山、横嶋、坂野、酒屋		
行動記録			

月 日 曜	天候	ポイント地点・所要タイム
12・11・土	曇り	浜松＝白馬五竜スキー場①＝アルプス平～小遠見山～西遠見山テント場 9:09 10:58 14:17
12・12・日	晴れ	テント場～白岳 ～ テント場 ～ 小遠見山～アルプス平＝①＝浜松 6:47 8:46 9:55～10:53 12:31 13:25

記事 目的の成否・状況・問題点(反省)・メンバーの状況・ルートの注意点・自然状況

<p>【①～地蔵の頭】スキー場の駐車場で仮眠。テレキャビン駅が一番近い駐車場は早々に車で埋まるので、テントで仮眠するのなら下の駐車場がベター。数年前に来た時は列に並んでテレキャビンに乗ったが、今回はすぐ乗れた。アルプス平からもう一本リフトを乗り継いで一番上まで上がる。輪かんを装着して地蔵の頭へ登る。</p> <p>【地蔵の頭～西遠見山】既に入山している人がいてトレースがある。見返り坂を登り切ると先行者が見えた。追いつく頃に雪がちらつき始める。先行の二人に挨拶して通り過ぎる時、ふと相手の顔を見ると、某超有名クライマーにそっくり。そこから6人でのラッセルとなるが、列に並んで進むと聞くとともに聞こえてくる二人の会話から確信。酒屋氏に頼んで名前を聞いてもらおうと、やっぱり世界的クライマーの佐藤裕介氏だった。しかし横嶋氏は「有名な人なんですかあ？(関西弁)」(山雑誌読んでないんか！)その後、三人組が追いついてきて9人でのラッセルとなる頃には西遠見山手前のテント場に着き、西遠見山へと登って行く5人を見送りテント設営する。テントに入る頃に雪が本降りとなる。三人組は下りてきて自分たちのテントから少し離れた所にテントを設営していた。テントでは、天気図を取った後に天気予報を聞いて、佐藤氏とカニともんじやの話でひとしきり盛り上がり、6時半には就寝。夜半、時折テントに吹き付ける強風で目が覚めた。</p> <p>【テント場～白岳～テント場】支度をして外に出ると快晴。三人組が出発の準備をして先に出て行った。昨日のトレースは消えていた。西遠見山に登るとテントがひと張りあった。中に人がいないと思ってあれこれ言っていたら佐藤氏が出てこられて、同行者の体調不良によりそのまま下山するとのこと。赤面。先行に追いつき、三人がラッセル巡したところで坂野氏が代わり、何かに取り付かれたように急斜面をラッセルして登って行った。雪崩の心配をしていた斜面だったが、雪はよく締まっている感じだった。三人組はこの斜面にこまめに赤旗を立てながら進んでいた。一段上がったところでこちらは輪かんをアイゼンに履き替える。三人組はそのまま先に進んで行った。しかし急に湧き上がるガスと強風に吹かれ、そのトレースは消え、再び先頭に立った坂野氏が白岳までトッパで登って行った。白岳を過ぎて五竜山荘を見下ろす地点で行動終了。ガスもきれいに晴れて快晴となった中、テレキャビンの最終が16時半なので、来た道を引き返す。三人組はもう一日あるのか、五竜岳方面へ下りていった。</p> <p>【テント場～アルプス平】佐藤氏のパーティが残して行ったトレースを辿り、2ピッチで地蔵の頭に到着。2000mを切る辺りからガスの中に入る。小遠見山を下りた辺りで大勢が雪上訓練をしていた。下りはリフトを使えないためアルプス平までスキー場の隅を歩く。ガスってるのでスキー客に激突されないよう気を遣った。</p> <p>【その他】2回目の遠見尾根(前回は西遠見山まで)だったが、今回白岳まで登ってみて、テレキャビンを使う以上、五竜岳まで狙うのなら2泊3日の日程が必要かなと思った。(西遠見山を過ぎるとあとは五竜山荘まで行くしかない感じ。)</p>
--

紙面不足の場合は裏面へ

報告者	大山	受付	平成	年	月	日	受付者
-----	----	----	----	---	---	---	-----



長い長い遠見尾根…



二日目、朝焼けの中、出発



五竜岳をバックにここで行動終了



白岳方面へ。白岳はガスの中



来た道に戻る